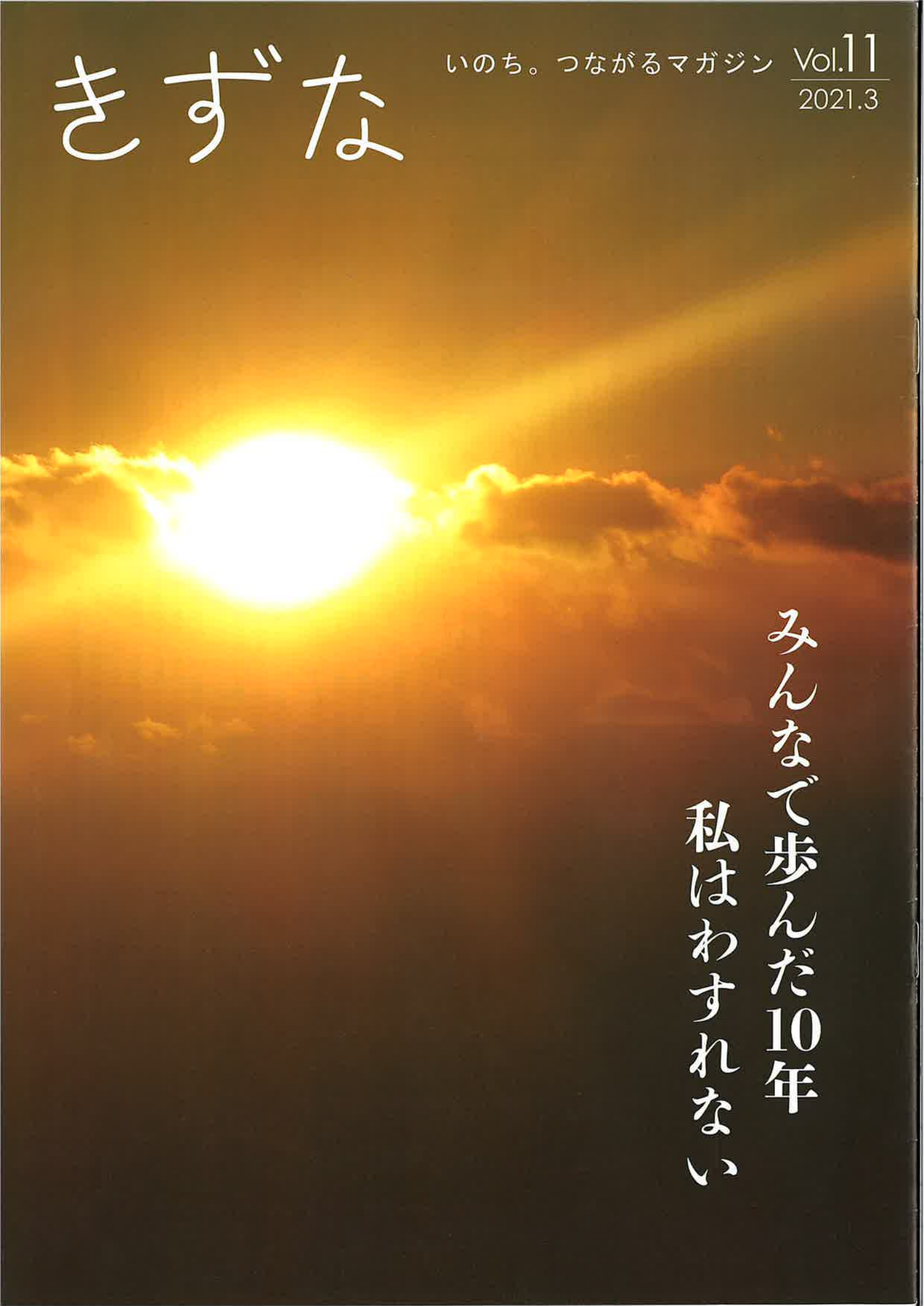
きずな

いのち。つながるマガジン Vol.11
2021.3



みんなで歩んだ10年
私はわすれない

濁世に生きる
―立教開宗の願いを聞く―

二〇二三（令和五）年に、浄土真宗本願寺派として、京都本願寺において、「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」を勤修いたします。

長野教区では、二〇二〇（令和二）年度から四年間の第四期「御同朋の社会をめざす運動」の期間内に法要が行われることを踏まえ「濁世に生きる―立教開宗の願いを聞く―」と実践目標を掲げ、これから教区・組に於いても、念仏の教えに出逢えた意味を問い返す行事が計画されます。

『顕浄土真実教行証文類（教行信証）』の成立をもって立教開宗としますが、いつ執筆されたのか長年議論されてきました。奥書（制作年・署名）がないことから未完の書とした他、関東撰述・帰洛撰述・晩年撰述、はたまた後年他者撰述と諸説さまざまですが、明治以降、実証史学による検証や宗祖の真蹟『教行信証』（坂東本）が、一九五四（昭和二九）年と二〇〇三（平成一五）年に、厳密な調査と修復作業が行われ、宗祖真蹟の筆跡の年代研究によって、化身土巻の「わが元仁元年」（原教行信証執筆時現在）（註釈版四一七頁）から、一二二四（元仁元）年には初稿本がほぼ完成されたと考えられます。関東在住の宗祖五二歳。その後初稿本を、およそ一〇年経った六二・三歳の頃に清書され直したものが「坂東本」で約八割がこの頃のものです。その後、七二・三歳の筆跡で「大集経」が追記され、七五歳の時には尊蓮（聖人の従兄弟）に、はじめて書写を許したことから、形が整ったと考えられます。七七歳までには化身土巻「承元の法難」の記録の冠註（号後鳥羽院・号土御門院・佐土院）が追記され、八三歳の一二五五（建長七）年には専信に書写を許し、その専信書写本を書写した本が、高田派の専修寺（三重県津市）に残されています。その後、化身土巻が分冊され、八三歳以降にも全体の一割強が書換えられ推敲・追記がなされたことが真蹟本との比較研究によって解ってきました。「西本願寺本」は、宗祖十三回会（忌）の後に「坂東本」を書写したものです。

宗祖二九歳「雑行を棄てて本願に帰す」法然聖人の吉水に入室。三二歳の時に二〇年間過ごした延暦寺より専修念仏の弾圧に遭い、七箇条制誡に「僧綽空」と連署。三三歳で『選択本願念仏集』の書写を許され、三五歳に「承元の法難」によって越後へ流罪。三九歳で流罪赦免後、翌年一二一二（建暦二）年には法然聖人がご往生されると、華厳宗の明恵が『摧邪輪』『摧邪輪荘厳記』にて『選択集』を批判しました。その後関東へ行かれ、一二二一（承久三）年の四九歳の時には、「承久の乱」を企てた後鳥羽上皇が失脚し、朝廷が実質的政治権力を失い、武士が実権を握るという時代に『教行信証』が著されました。

「わが元仁元年」一二二四年は、法然聖人の十三回会、延暦寺が一向専修念仏の停止を奏上し弾圧が行われました。

結嘆にあたるいわゆる「後序」に法難の記録文書を置き、顕密仏教（倶舎・成実・律・法相・三論・華厳・天台・真言）と朝廷・幕府権力の洪水・火事・地震・飢饉等のなかで国家安寧（権力保持）のために人の行動を縛り、一致団結を強いて服従の意識を植えつけ、分断し排除し孤立させる関係を糾すこと、法然聖人の教えを顕彰され、明恵の批判した専修念仏者による「菩提心の否定」は、浄土の大菩提心として、「如来よりたまわりたる信心」を解き明かし、「すゑとほりたる」仏法を顕らかにされたのが『教行信証』です。

人が人として目覚めるとともに、悲しみ・苦しみ・呻きのような声を聞きあい、お互いに「濁世」を共に歩む仲間と御同朋の社会をめざし、いつでも、どこでも、誰にでもはたらく教えを聞き合い、「同朋教団」を標榜する浄土真宗の「立教開宗」の願いに深く学ぶ研修を重ねつつ法要をお迎えしましょう。

（中島 清志）

親鸞聖人年表

1198（建久9）年26	法然『選択本願念仏集』撰述。
1201（建仁1）年29	宗祖 叡山延暦寺を出て、六角堂に参籠、法然の門に入る。
1204（元久1）年32	法然「七箇条制誡」をあらわす。宗祖「僧綽空」と連署。
1205（元久2）年33	宗祖『選択本願念仏集』を書写し、法然の真影を図画。
1206（建永1）年34	興福寺衆徒、念仏止停止を訴える。興福寺奏状。
1207（承元1）年35	「承元の法難」専修念仏停止の院宣がくだり、宗祖、越後へ遠流。法然は土佐へ流罪（実際は讃岐）、西意・性願・住蓮・安楽、斬首。九条兼実往生。
1211（建暦1）年39	宗祖、流罪を勅免。法然、流罪を許されて入京、東山大谷に住す。
1212（建暦2）年40	法然示寂（80歳）。明恵『摧邪輪』を著わし『選択集』を批判。
1213（建暦3）年41	明恵『摧邪輪荘厳記』を著わす。
1214（建保2）年42	宗祖「さぬき」で三部経千部読誦、やがて中止。常陸へ。
1221（承久3）年49	「承久の乱」後鳥羽上皇を隠岐へ配流。聖覚『唯信鈔』著す。
1224（元仁1）年52	延暦寺衆徒の奏請により専修念仏禁止される。延暦寺奏状。宗祖、当年を末法に入って683年と『教行信証』に記す。覚信尼誕生。法然13回会
1227（嘉禄3）年55	延暦寺により、専修念仏禁止。法然墓所破却。『選択集』版本・板木焼却。隆寛ら流罪。
1232（貞永1）年60	宗祖帰洛、か。
1234（天福2）年62	幕府、専修念仏禁止。

コロナ禍にあって

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界中に感染拡大し1年が経過しました。2021年2月現在、未だにその終息を見通すことは困難な状況が続き、世界中の誰もが不安と恐怖の日々を送っています。

感染防止のため、三密の回避・不要不急の外出自粛・マスク着用の徹底など「新たな生活様式」の実践がすすめられる中、私たちの生活は大きく変化し続けています。東京オリンピック・パラリンピック、春・夏の甲子園、卒業式・入学式等、多くの行事・イベントが軒並み中止や延期、規模縮小せざるを得ない状況にあります。その日のために頑張ってきた人々の無念さは察するに余りあります。お寺も同様です。毎年、宗祖親鸞聖人のご命日をご縁とした大切な仏事である報恩講法要も昨年は、距離をとっての参拝にせざるを得ませんでした。あるご門徒は「長いことお寺にお参りしているけど、こんな年は初めてだ。嵐の年もあったし、季節はずれの雪が舞った年もあった。けれど、どんな事があっても報恩講は賑々しく勤まってきたんだよ。来年は本来のかたちで勤めたい」と前を向きながらもどこか寂しそうにおっしゃいました。

会いたい人に会えない、行きたいところにも行けない日常はある意味で、人は多くの支えのうえにあるお互いであるという事を改めて知らされる契機となりました。史実をたどりますと、親鸞聖人の時代もいわゆる疫病が度々あったと残されています。また、『御文章』四帖目第九通には「疫癘（伝染病）」について述べられていることから、蓮如上人の時代にも感染症があったことがわかります。

人間と感染症の歴史はそれだけではありません。細菌による感染症としては、ペスト・コレラ・結核・ハンセン病、ウイルスとしては天然痘・インフルエンザ・SARS・MARSなどがあげられます。忘れてはならないのは感染症が広がるたびに感染者の人権が無視され、忌避・差別がおこったということです。コロナ禍にあっても例外ではありません。残念ながら、感染症差別の歴史を繰り返している現実があります。

元西本願寺あそか診療所所長の佐々木恵雲医師は、一般財団法人同和教育振興会の『振興会通信』（第155号）に「新型コロナウイルス感染症の世界的流行は私たちの社会に大きな影響を及ぼし、経済・社会活動や生活様式は大きく変わろうとしている。一方、その影響は外的なことにとどまらず、私たちの社会や心に潜在していた差別の問題をあらわにし、特に感染症にともなう差別は世界で拡大している」と警鐘を鳴らしています。

1999年、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」が「伝染病法」に替わり制定されました。これは感染症に対する間違った見方や差別があったという事実を受け止め、それを教訓として反省した結果であります。しかし、このコロナ禍で過去の教訓を生かすことができていないのが現実です。欧米ではアジア人というだけで差別を受ける事件が相次ぎ、日本でも感染者宅に石が投げられる、感染者やその家族のプライバシーが暴かれ不当にたたかれる、自粛期間中に営業している店に張り紙をする、さらには感染のリスクに常に晒されながらも懸命に働いておられる医療従事者が差別されるといった事件が今もおこっています。

「コロナより怖いのは人間だった」。半年ほど前、この言葉をよく耳にしました。多くの人が共感し頷かれたことでしょう。自分自身を振り返り、この言葉の「人間」に「自分」も含んでいただろうか、「自分以外」と聞いていなかっただろうかと問い直します。感染者数が多い地域の車のナンバーが気になり、会話の中で何気なく「連休中、県外ナンバーをたくさん見たよ。この辺もコロナが広がらなきゃいいけど」などと口にする背景には、新型コロナウイルス感染症を広げるのは、自分以外の誰かによるものという偏見からの私の姿でありました。

その一方で、先日ある新聞記事にであいました。「せんせいへ　いつもあそんでくれてありがとう　ごめんねじゃないからね」。新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した保育所に通う園児が、先生宛てに書いた手紙の一文です。受け取った先生はどれだけの安心と力をもらったことでしょう。

そして、誰もが感染し得るという状況にあったとしても、自分中心の思いによって他者を傷つけていく私であったと知らされました。恐れるべきはウイルスであり、人でも世間でもありません。1通の園児の手紙から思わせていただきました。

コロナ禍にあって、過去の反省と痛みに学び直すこと、問い直すことが必要ではないでしょうか。もちろん、感染拡大防止のため充分な対策を一人ひとりが実践することは大切です。人と人が距離を取ることはしばらく続くことでしょう。しかし心は離れず、誰一人孤独を感じることのない、切り離されていくことのない社会である事を願います。コロナ禍であってもなくても、阿弥陀さまの願いが変わることはありません。

親鸞聖人が歩まれた御同朋の道をともに歩んでまいります。

同朋運動70周年記念大会

2020年、同朋運動は70周年を迎えた。この節目にあたり、昨年12月10日、同朋運動をすすめる7者協議会主催のもと、本願寺同朋センターにおいて「同朋運動70周年記念大会」が開催された。今大会は現在のコロナ禍による厳しい社会状況に鑑み、感染防止対策を徹底し、大会規模を縮小するなど、粛々と行われた。当日は記念大会に先立ち、顕道会館において記念法要が勤まり、法要後は主催者を代表して岩本孝樹さんがこれまでの歩みを振り返った。また記念大会では、開会に続き元文部科学事務次官 前川喜平さんが記念講演を行い、最後に同朋運動70周年にかかる大会宣言が参加者全員により読み上げられ、全会一致にて承認された。

ここで、大会を通してあらためて確認された同朋運動の歴史や取り組みについて、その一端を紹介する。

同朋運動の出発点

同朋運動の出発点は1950年に遡る。これは同年、僧侶と教団の差別的なあり方を見直し、差別・被差別からの解放をめざすことを目的として設立された「浄土真宗本願寺派同朋会」の規約において同朋運動が提唱されていることに起因する。同朋運動は「差別の現実からの出発」を原則として、発足当初は部落解放運動を中心に活動を行ってきた。その後、社会の変化に連動しながら、あらゆる差別問題に取り組んでいく教団の基幹運動として発展を遂げた。

しかしその一方、岩本さんはこれまでの歩みを振り返るにあたり、現在の教団が残念ながら同朋教団となりえていない現実を指摘し、同朋教団の確立こそが同朋運動を同朋運動たらしめる大きな眼目であると言及された。これは、70年経った今もなお、教団（私たち）が差別構造と差別体質を内包していることを示すとともに、差別問題を他人事あるいは昔事として考えるなど、主体者として「差別の現実からの出発」の原則を捉えられていないことを表している。

体制の変化と現在の取り組み

同朋運動は70年の歩みのなかで、その体制も変化していった。1986年には門信徒会運動とともに宗門の「基幹運動」として一体的な取り組みがなされ、さらに2012年からはその名称を「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）とあらためた。そして現在、同朋運動は宗門全体の活動として進められ、取り組むべき課題も多岐にわたる。

今大会ではその課題のなかでも「貧困・格差社会」に焦点をあて、「格差社会の現状と子どもの課題」をテーマとして、前川さんより講演をいただいた。この課題は現在宗門また当教区においても注力しており、非常に意義深い内容であった。特に印象深いのは、現在のコロナ禍により顕在化した子どもの貧困格差（教育格差、自粛による児童虐待、給食停止による健康被害など）についての提言である。前川さんは教育行政に携わった立場から、この課題の背景には、全国一斉休校をはじめとする法的及び科学的根拠のない誤った政策の実行、いわば政治の貧困というべき状況があり、「そもそも子どもには一切の責任がない」との見解を述べた。これは非常に重要な視点である。あらゆる差別問題において、差別される人びとが責任を負うことがあってはならない。当たり前の論理に感じられるかもしれないが、私たちの教団には差別を温存、助長してきた歴史がある。私たちがめざすのは、差別をなくすとともに、差別をしている私からも解放されていきたいという「差別・被差別からの解放」である。

私たちが関わり続ける差別問題は時代とともに複雑になり、インターネットやSNSの発展に伴い潜在化、陰湿化している。そのようななかで、どのように差別を見抜き、見過ごさず、向き合っていくのか。

「私が変わっていくことが実は教団が変わっていくことであり、教団が変わっていくことが実は私が変わっていくことであります。」

大会挨拶のなかで、岩本さんが繰り返し話した言葉である。これは言い換えれば、同朋運動は私たち一人ひとりが担う運動であることを表している。70周年の節目にあたり、本取材を通してあらためて親鸞聖人が示された御同朋のあり方を見つめ直し、同朋運動を私自身の運動として受けとめるとともに、さらなる発展に向け取り組む決意を新たにした。

（滋野 顕慈）

10年を経て

東日本大震災の現状から

2011年3月11日に起こった東日本大震災から今年で10年となります。現在では震災の復興状況などの情報が乏しくなり震災が風化しつつあるのではないでしょうか。そこで昨年12月21日・22日と震災・津波の影響による被害が甚大であった福島県南相馬市と、宮城県仙台市のボランティアセンターで現在の状況を伺ってきました。

震災直後からセンターを開設

浄土真宗本願寺派は、震災直後に本願寺仙台別院・東北教区教務所を本部に「東北教区災害ボランティアセンター」を開設し、震災被災地の復興支援活動をしてきた。

仙台別院境内地にあった、震災の年の3月で閉園した「あそか幼稚園」を急きょ事務所兼宿泊施設として開放し、国内外・宗教を問わず多くのボランティアを受け入れ、活動を継続してきた。

「震災1年目は大混乱の状態で、特に震災当初より夏ごろまでは津波の影響を受けた被災地で津波流入物撤去や支援物資の搬送が主な活動でした。仮設住宅への入居が始まる頃には被災者の『心のケア』としてお茶会や居室訪問活動を立ち上げていきました」と、センター開設時から個人ボランティアとして活動をしてきた仙台別院職員の井上芳正さん（写真左）は当時を振り返る。現在、当時の園舎は取り壊され、ボランティアセンターは別院奥の教化センターに移転している。

開放されたサロン

2013年より現在に至るまで同センターでは「サロン（お茶会）」を開催している。（現在はコロナ禍で月5回開催）

「当初は宗教色を出さないようにとお内仏を見えないようにしていた。最近は『せっかくのお寺なのだから』と阿弥陀さまに手を合わせる方も多い。今後は宗門の流れをふまえ、門信徒を対象に教区とともに活動する予定がある」と言う。

新たに4つの支援活動

今後、東北教区の「現地緊急対策本部」は新規の活動を検討している。

①お寺にご縁のある原発被災者の子ども達を両親・祖父母の故郷に招く。【ある年齢以下の子ども達は故郷に足を踏み入れた経験が全くない】

②相馬組のご門徒を対象に、報恩講等にお参りいただく機会を提供する。【散りゞになってしまった方々が、お寺をご縁に顔を合わせられる機会】

③震災被災者の避難先でお世話になった方々等を被災地に招く。【防災減災教育・風評被害軽減につなげる】

④「震災を忘れない日」として毎月11日に教区内各組で法要等を行う。

「新しい事業ですので、どれだけの方々の協力が得られるかが課題です」と井上さん。10年という年月が経過しても未だ震災の影響下で苦しむ方がいることを私たちは忘れてはならない。

（丹所 良賢）

「震災・津波の影響で福島第一原発の事故による放射能被害にあって避難区域の方々は避難生活が長期化し、未だ復興の目途が立っていません」と、東北教区相馬組勝縁寺住職の湯澤義秀さん（写真右上）は冒頭に訴えた。毎日出続ける汚染水の処理、山積する核処理問題で進まない廃炉作業。そのような状況の中でも湯澤さんは寺院活動をされている。

相馬組の現状と取り組み

相馬組は10ヵ寺中7ヵ寺が未だ避難をしており、組活動は休止状態が続いているが「組会」や「門信徒の集い」、また「災害追悼法要」は毎年実施されているとのこと。

この「門信徒の集い」は、相馬組全寺院で「移動門信徒の集い」として、県内外に避難している門信徒も参加しやすいように、近隣に住む門信徒とともに数台のバスで送迎をしながら開催をしている。

10年を機に全国で避難生活をしている門信徒の方々に対し、この地に戻って来て欲しいという思いから11月に「里帰り報恩講」と、避難してこの地を知らない10歳未満の子どもを対象に、「子ども達のお参り」の実施に取り組む予定をしている。

感謝を込めて子ども達の交流を

また、支援をしていただいた立場から「震災以降、福島の子ども達が全国各地でお世話になりました。これからは各地のお子さまを福島に招きたい。保護者の方は戸惑うでしょうが、特に福島の食品について、いかに安全であるかということを知ってもらうためのホームステイ交流。農協や商工会にベクレル計測器があり、現地で子ども達に実際に見てもらえば、充分安心できるということがわかります。そうすることによって食品への風評被害も少しずつ解消されるのではないかという思いから、是非とも子ども達の交流を実施したい」と切望する。

原発の監視員に

最後に湯澤さんは、「皆さまにお願いがあります。全国民一人ひとりが原発の監視員になって欲しい。今後増えてくるであろう廃炉についての様々な問題に対して、強く関心を持って欲しい」と言われ、原発に対していかに自分が無関心に過ごしてきたかと言うことを改めて考えさせられた。

去る2月13日午後11時8分、福島県沖を震源とする最大震度6強の地震が発生しました。東日本大震災から10年、ますます復興への気運を高め、全国に向けて復興への取り組みを発信する矢先の出来事でした。地震により被災されました皆さまに心よりお見舞い申しあげます。

Voice

東日本大震災被災地支援活動10年を迎えて

2021（令和3）年
1月13日

座談会参加者
海野　栄（松本組西生寺坊守　参加9回）
和田　睦子（本願寺松本別院門徒　同18回）
山崎　慶雅（河西組西光寺衆徒　同12回）
金井　達也（山地組明専寺門徒　同15回）
丸山　次男（飯山組宣勝寺門徒　同36回）
中島　清志（河東組圓光寺住職　同29回）
司会進行
柳川　大喜
（行事広報部会副部長・松本組善福寺衆徒　同7回）
※敬称略

司会　お集まりいただきありがとうございます。長野教区では、2011年5月より「実践目標」を10年の長期的支援活動と掲げ取り組んでまいりました。この度の座談会は現地で度々活動されてこられた皆さんに、10年の振り返りとこれからの歩みについてお話を伺いたく思います。よろしくお願いいたします。

司会　初めに、活動の中で皆さんそれぞれが印象に残っている事、忘れられないことについて伺います。

丸山　震災直後の6月に、石巻の称法寺さんへ流入物の清掃作業に行った時の光景が印象深く残っています。津波で流された車や家が大きな木に引っかかっていました。また、地震当時のお話を伺って、自分が現地にいながらも想像できない状況にあったことを覚えています。その後の炊き出しも、初めの頃は皆さんとゆっくりお話しもできないほど忙しくそばを提供したのを思い出します。昨年、寄せていただいた時はたくさんの笑顔を見ることができました。月日が経ち「変わったなあ」と感じることが多々あります。

金井　雇用促進住宅という避難所に信州そばの炊き出しに行った時のことです。そこは多くの仮設住宅とは違い、色んな地域から避難された方々が暮らす避難所でした。孤独を感じておられる方もたくさんおられたと思います。初めて寄せてもらった時、歩くのも辛そうな女性の姿が今でも印象に残っています。その後、何度か寄せていただきましたが、毎回その方のお顔を拝見することができました。行ってよかったと率直に思いました。出会いの中で学んだことがたくさんあったように思います。

和田　そうですね。私はそばの提供の際、薬味の下準備や盛り付けの担当をすることが多かったんです。当初、少しでも多くの方に召し上っていただきたい思いで必死でした。ふと頭をあげてみると、ズラーっと並んだ長い列が印象深かったですね。何より年々会話が増え、たくさんの笑顔を見れたのが嬉しかったです。

海野　私は年に1回だけでしたが、活動に参加させていただきました。私たちには常に、東北の皆さんに思いを寄せるということは難しいかもしれません。けれど、現地に行って、同じ空気を吸って、おそば一杯ですがその時だけでも被災した皆さんのためになれば、という思いでした。お互いが笑顔でお話しできた時は、本当に嬉しかったです。いくら力になりたいと思っても私一人でできることは限られます。けれど、教区の方々が10年の実践目標として活動を立ち上げてくださったことで、一緒にたくさんの笑顔を見させていただきました。本当に感謝しています。

山崎　皆さんおっしゃいますように、初めての活動は印象に残っていますね。私の初めての活動は、泥出しや流入物の清掃でした。無我夢中で毎回ヘトヘトになりながら作業させてもらったのを思い出します。震災後の4月に行って、その時海岸から見た津波による被害状況、その景色は今も覚えています。振り返りますと、復興の過程も含め、一つ一つが思い出されます。

中島　3月14日に東北に入り、宗派としてのボランティアセンターの立ち上げに関わりました。地震と原発の水素爆発によって道路が寸断され、新潟・山形経由で仙台市内へ向かう状況でした。

その後、石巻で見た被害の状況を目の当たりにしたときに、この景色に向き合った感想をこれからどうやって大事にしていくかということがスタートであったように思います。私たちに何ができるだろうと問い続けながらの10年でした。活動として53回重ねてこられたということは大切なことでした。

司会　ありがとうございます。やはり震災当初の印象は大きかったように思います。10年の歩みの中で、様々な変化をその都度受け取っていかれたと思います。改めて変化という点はいかがですか。また、今後の取り組みについてもお聞かせいただければと思います。

和田　支援活動で出会い親しくなった人が私に手紙をくださり、今でもやりとりをさせてもらっています。手紙の回数を重ねる中で、元気になっていかれる様子が感じられ、嬉しく思っています。

海野　今、一番気になるのは福島の方々のことです。私は一度だけ福島で炊き出しをさせてもらったことがあり、その時「家はあるけど原発の事故で帰れない」というお話をお聞きしました。そのことがずっと心から離れません。今もまだ避難されている方々がたくさんいらっしゃいますけど、報道は極端に減ったように思います。みんなで考えることができればと思います。

山崎　5年ほど経った頃を境に、仮設住宅から子どもたちの姿が急激に減っていく変化を見ました。それは、比較的若い家族の方々が、復興公営住宅や新たに家を建てるなどして移られたためです。日常を取り戻すことが進む一方で、取り残されてしまう方々がいることを目の当たりにしました。「復興」という言葉の表と裏を見たように思います。

海野　私もそのことは強く感じました。震災で多くのものを失い、一から関係を築いていかなくてはならない状況で、中には孤独に亡くなっていく方もおられました。それも災害の一つであると思います。街はきれいになっていくかもしれないけれど、「復興」という言葉に反して人の心が寂しくなってしまっている状況を見てきました。

和田　心が豊かになって、人々が地域として「復興」していくということは、思うほど簡単なことではないんだとしみじみ感じながら帰ってきたことがありましたね。

丸山　もちろん、仮設住宅から移られてからの生活や地域との関係が充実している雰囲気も感じることはありました。しかし一方で、皆さんがお話しされたように、復興公営住宅においては、誰がどこにお住まいなのか、なかなか情報共有できていないという状況も耳にしました。仮設住宅からその後の生活ということに関しては、今後も課題として問い続けなくてはならないと思います。

金井　変化ということで言いますと、一緒に活動してきた信濃むつみ高校の生徒さんたちの様子が印象深いです。3日間一緒に過ごす中で、日に日に率先して動き、思いを寄せて行こうとする姿を見させていただきました。現地に行ってその目で見ること、当時のお話をその耳で聞かせていただいた経験は、彼ら彼女らにとって大切なことだったと思います。

和田　10年経って、テレビや新聞で東北のことが取り上げられることは少なくなりました。ともすると、「元通りになった」という思いの人がおられたらそれは寂しいことです。どんな形であろうが、これからも関わり続けて行きたいですね。

海野　時間が経過して景色が変わっていけば、私たちの記憶は薄れてしまうかもしれないが、忘れてはいけないことだと思います。私たちが行って見たこと、聞かせてもらったことを身近な人に伝えていくということも支援活動だと思います。これからも伝え続けていきたいと思います。

中島　この1年は、新型コロナウイルスの影響で活動がほとんどできませんでした。10年前、東北の状況を見て何かできることをしたいという思いを、長野から東北へお伝えしてきました。行くたびに状況が変わり、その変化に喜んだり悲しんだりの姿に学びながらの取り組みでした。多くの皆さまのお力をいただき活動が継続できたことに感謝申しあげます。有難うございました。

山崎　私たちは2年前、台風19号の災害にあいました。昨今は日本各地で災害が起こります。そうしたとき、私はどう対応できるのかを考えていきたいと思います。また、お寺としてもどのような役割を担うことができるのかを考えていかなくてはならないように思います。

丸山　私がこの活動をするのは、自分の体験からです。昭和58年、飯山の水害を経験しました。この経験から少しでも寄り添うことができたらという思いでここまで続けてきました。今後、活動のかたちは変わっていきますが、これからも東北に寄り添っていけたらと思います。

「御同朋の社会をめざす運動」の実践目標の10年を迎え、本誌には長野教区東日本大震災被災地支援活動のインタビューや活動記録を掲載しました。改めて、現地に行かれた方々だけでなく、物資の提供、たすけあい募金等、多くの皆さまのご協力があったからこそ、続けることができた実践運動であることを、確認させていただきました。ご協力いただいた皆さま、そして、この活動を受け入れてくださった被災地の皆さまに、深く感謝申しあげます。

阿弥陀さまの願いの中にあり、親鸞聖人が示された御同朋・御同行の歩みは、ともに歩むということと同時に「私を」そして「私の生きる社会」を問い続ける歩みでもあるといただきます。

どのようなかたちとなるかは未定ですが、今後も被災地支援に関わっていきたいと考えています。

きずな Vol.11 2021 3

長野教区東日本大震災復興支援活動記録 2011年～2020年

No.	団体回数	期間	支援者合計数	信濃むつみ高校	活動内容	お蕎麦提供数	支援先	支援個所
1	現地視察	2011年3月14日～17日	2		ボランティアセンター立ち上げ・現地視察		仙台市・石巻市	2
2	1	2011年5月9日～12日	4		流入物清掃作業		仙台市・石巻市・亘理町	2
3	2	2011年6月8日～11日	11		流入物清掃作業		石巻市	3
4	3	2011年7月11日～14日	11	4	流入物清掃作業		石巻市	2
5	4	2011年8月17日～19日	8		信州蕎麦炊き出し・キッズサンガ・交流会	350	名取市	3
6	5	2011年9月11日～14日	3		茶話会／リンゴ・綿アメ提供・流入物清掃活動		石巻市・名取市	3
7	6	2011年10月11日～14日	6		茶話会／リンゴ・綿アメ提供・流入物清掃活動		名取市・石巻市・山元町	6
8	7	2011年11月27日～30日	8	4	茶話会／リンゴ・綿アメ提供・流入物清掃活動		岩沼市・名取市・石巻市	4
9	8	2011年12月19日～22日	13	4	炊き出し／信州そば・リンゴ・綿アメ	900	名取市	5
10	9	2012年2月5日～8日	14	6	炊き出し／信州そば・リンゴ・綿アメ	1,200	名取市	5
11	10	2012年3月3日～5日	13		炊き出し／信州そば・リンゴ・ジュース・綿アメ	500	石巻市	1
12	11	2012年5月11日～14日	15	6	炊き出し／信州そば・綿アメ／子供向け抽選ゲーム大会	1,400	名取市	1
13	12	2012年7月12日～15日	16	6	炊き出し／信州そば・綿アメ／子供向け抽選ゲーム大会	600	名取市	4
14	13	2012年9月12日～15日	8	2	炊き出し／信州そば・かき氷／子供向け抽選ゲーム大会	700	仙台市・名取市	5
15	14	2012年11月25日～28日	12	4	炊き出し／信州そば・リンゴ・綿アメ／子供向け抽選ゲーム大会	350	仙台市・名取市	4
16	15	2013年1月27日～31日	12	7	交流会／信州そば・リンゴ・綿アメ・銀杏／抽選ゲーム大会	400	仙台市・東松島市	6
17	16	2013年3月31日～4月3日	10		交流会／信州そば・リンゴ・綿アメ・ポップコーン／抽選ゲーム大会	450	仙台市・東松島市	4
18	17	2013年6月9日～12日	24	14	交流会／信州そば・綿アメ・ポップコーン・かき氷／抽選ゲーム大会	750	仙台市・名取市・岩沼市	5
19	18	2013年8月6日～9日	9		交流会／信州そば・ポップコーン・かき氷／サックス演奏／抽選ゲーム大会	500	名取市・東松島市	5
20	19	2013年11月17日～20日	13	4	交流会／信州そば・ポップコーン・綿アメ・リンゴ／マジックショー・抽選ゲーム大会	750	名取市	5
21	20	2014年1月26日～29日	14	7	交流会／信州そば・ポップコーン・綿アメ・リンゴ／抽選ゲーム大会	400	名取市・東松島市	4
22	21	2014年3月9日～12日	10		交流会／信州そば・ポップコーン・綿アメ・リンゴ／抽選ゲーム大会	750	仙台市・名取市	4
23	22	2014年5月25日～28日	15	7	交流会／信州そば・ポップコーン・綿アメ・リンゴジュース／抽選ゲーム大会	700	仙台市・名取市・岩沼市	5
24	23	2014年7月27日～30日	13	3	交流会／信州そば・ポップコーン・かき氷／抽選ゲーム大会	660	仙台市・名取市	5
25	納涼祭	2014年8月5日～6日	4		信州そば・ポップコーン提供	250	仙台市	3
26	24	2014年10月5日～8日	8		交流会／信州そば・ポップコーン／抽選ゲーム大会	500	仙台市・名取市・石巻市	4
27	25	2014年12月14日～17日	15	6	交流会／信州そば・ポップコーン・綿あめ・リンゴ／抽選ゲーム大会	500	仙台市・名取市・東松島市	5
28	26	2015年2月22日～25日	17		交流会／信州そば・ポップコーン・綿あめ・リンゴ・銀杏／抽選ゲーム大会	500	仙台市・名取市	5
29	27	2015年5月17日～20日	15	6	交流会／信州そば・ポップコーン・綿あめ／サックス演奏／抽選ゲーム大会	500	仙台市・名取市	5
30	28	2015年7月26日～29日	16	7	交流会／信州そば・ポップコーン・かき氷／抽選ゲーム大会	520	仙台市・名取市	5
31	納涼祭	2015年8月5日～6日	5		信州そば・ポップコーン提供	250	仙台市・名取市	3
32	29	2015年10月4日～7日	13	7	交流会／信州そば・ポップコーン・綿アメ／抽選ゲーム大会	450	仙台市・東松島市	5
33	30	2015年12月13日～16日	14	6	交流会／信州そば・ポップコーン・リンゴ・銀杏／抽選ゲーム大会	650	仙台市・名取市	5
34	31	2016年2月14日～17日	9		交流会／信州そば・ポップコーン・綿あめ・リンゴ／サックス演奏／抽選ゲーム大会	385	仙台市・名取市	5
35	32	2016年5月22日～25日	14	7	交流会／信州そば・ポップコーン・綿あめ・リンゴジュース／抽選ゲーム大会	400	仙台市・名取市・福島県	4
36	33	2016年7月24日～27日	19	10	交流会／信州そば・ポップコーン・かき氷・リンゴジュース／抽選ゲーム大会	570	仙台市・名取市・東松島市	5
37	納涼祭	2016年8月5日～6日	4		信州そば・ポップコーン提供	250	仙台市・名取市	2
38	34	2016年12月18日～21日	16	7	交流会／信州そば・ポップコーン・綿あめ・リンゴ／抽選ゲーム大会	680	仙台市・名取市・亘理町	5
39	35	2017年2月19日～22日	18	10	交流会／信州そば・ポップコーン・綿あめ・リンゴ／サックス演奏／抽選ゲーム大会	500	仙台市・名取市	5
40	36	2017年7月23日～26日	17	9	交流会／信州そば・ポップコーン・かき氷／抽選ゲーム大会	500	仙台市・名取市	5
41	納涼祭	2017年8月5日～6日	4		信州そば・ポップコーン提供	250	仙台市・名取市	2
42	37	2017年10月1日～4日	16	7	交流会／信州そば・ポップコーン・綿あめ／抽選ゲーム大会	670	仙台市・名取市	5
43	38	2017年12月17日～20日	9		交流会／信州そば・ポップコーン・綿あめ・リンゴ・銀杏／サックス演奏／抽選ゲーム大会	400	仙台市・名取市・東松島市	5
44	39	2018年2月4日～7日	19	10	交流会／信州そば・ポップコーン・綿あめ・リンゴ／抽選ゲーム大会	350	仙台市・名取市・岩沼市	5
45	40	2018年5月27日～30日	17	10	交流会／信州そば・ポップコーン・綿あめ／抽選ゲーム大会	330	仙台市・東松島市	4
46	41	2018年7月22日～25日	18	9	交流会／信州そば・かき氷・／抽選ゲーム大会	330	仙台市・名取市	5
47	納涼祭	2018年8月5日～6日	4		信州そば・ポップコーン提供	300	仙台市	1
48	42	2018年12月16日～19日	17	8	交流会／信州そば・ポップコーン・綿あめ・リンゴ・銀杏／抽選ゲーム大会	262	仙台市・福島県・石巻市	4
49	43	2019年2月3日～6日	9		交流会／信州そば・ポップコーン・綿あめ・リンゴ／抽選ゲーム大会	415	石巻市・東松島市・名取市	4
50	44	2019年5月26日～29日	17	8	交流会／信州そば・ポップコーン・綿あめ・リンゴジュース／抽選ゲーム大会	445	石巻市	4
51	45	2019年7月21日～24日	19	10	交流会／信州そば・ポップコーン・かき氷／サックス演奏／抽選ゲーム大会	720	仙台市・石巻市	5
52	46/台風19号支援	2019年12月15日～16日	10		炊き出し／きのこ汁・綿あめ・ポップコーン・マジックショー	120	長野市	2
53	47	2020年2月16日～19日	15	8	交流会／信州そば・ポップコーン・リンゴ・ジュース／抽選ゲーム大会	445	石巻市	4
合計	47		642	223		23,452		214
関連支援		2011年3月15日～4月7日	157	炊き出し合計数	長野県北部地震　栄村救援活動　合計12回	2,950	栄村役場・避難所	7

※この活動は、たすけあい募金・物資の提供・その他、物心共に多くの皆さまのご支援のもと、進めることができました。ご協力いただきましたすべての皆さまに、心より御礼申しあげます。

長野教区実践運動機関誌　きずな　2021年3月31日　●発行　浄土真宗本願寺派 長野教区　〒380-0845 長野市西後町1653　●印刷　奥山印刷工業株式会社
TEL.026-232-2621　Eメール nagano-b@io.ocn.ne.jp